上川井だより

令和５年９月２９日
横浜市立上川井小学校
校長　　山崎　真紀子

１０月号

わたしたちのまち　上川井

暑さ寒さも彼岸までといいますが、今年はなかなか暑さが和らぎません。それでも、夕方には草の陰で虫が良い音を響かせ、日の暮れるのもすっかり早くなりました。花壇のキバナコスモスも美しく咲き乱れ、少しずつ秋へと季節が移ろっていくのを感じます。

さて、先月９日には、地域の奉納演芸祭が４年ぶりに開催されました。本校のこどもたちもたくさん参加していました。地域の方の上川井音頭や歌を見聞きし、楽しい夕べを過ごす姿が見られました。夜暗くなるころに、おうちの人や友達と出かけるお祭りは、こども心に格別の高揚感をもたらします。私もこどものころは、夜のお祭りに家族と出かけ、買ってもらう綿菓子やジュースがいつもよりおいしく感じたものでした。光る腕輪を宝物のように感じて、わくわくしたのをよく覚えています。どの子も、ぼんやり光る提灯の光の下で、とてもゆったりとした笑顔で過ごしていました。

翌日１０日には、こども神輿が催され、宮下から亀の甲山方面を回って町内を練り歩きました。こども神輿を担ぐ前に、こども会会長の座間さんから「おみこしの意味を知っている人はいますか。」と問いかけがありました。「お神輿というは、神様の乗り物です。神様を乗せて町の中を見てもらい、町から災いがなくなるようにお願いするのです。だから、元気に掛け声をかけながら、みんなで力を合わせてお神輿を担いで歩きましょう。」と、お話がありました。

途中ケアプラザに立ち寄って、ご年配の方々に「わっしょい、わっしょい。」と威勢のいい様子を披露し、喜ばれていました。

他の地域では、子ども会も年々なくなっていくところが多いと聞きます。子どもの数が少なくなってきていることや、共働きが増え、役員の担い手が見つからないことも原因の一つのようです。上川井町では、こどもたちのために朝から法被を着て気合を入れ、暑い中一緒にお神輿で練り歩いてくれる大人がいます。とても幸せなことだと感じます。こうして、地域の中で育つこどもたちは、人とつながる力を身に付けていくことができると思うからです。町に自分たちの居場所があり、頼ることのできる大人がいる、これほど心強いことはありません。

学校という限られた世界にとどまることなく、入学前の小さな子と遊ぶ幼保小交流、中学校生活を間近に感じる小中交流、非行防止教室で寸劇を演じて教えてくれた高校生との交流、特別支援学校という別の学校に通うお友達とのわかば交流など、様々な立場や年齢の人との出会いの場を作っています。いろいろな人と触れ合い、刺激し合いながら人の輪の中で育ち、やがて、この上川井のまちを大切なふるさととして守っていく大人に育っていってほしいと願っています。